

# 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園運営事業			会計	款	項目	大	小
				01	03	02	07	02
政策	04	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	児童発達支援センター			
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	長谷川 聖二			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	概ね2歳から18歳未満で、成長や発達に心配がある児童及びその保護者	意図	子どもの障害及び程度を保護者が受容し、必要な療育支援を受けることによって幼児・児童の運動・ことば・社会性など、全体発達を促す。
事業内容	月曜日から金曜日まで通園バスを利用して登園し、集団活動を行う。また、基本的な生活動作、情緒や運動機能を育て、幼児・児童の社会的自立と地域での生活に向けて支援する。			
事業開始から現在までの状況変化	昭和52年マザーズホームから知的障害児通園つばさ学園となる。平成24年4月から経過的処置として「児童発達支援センター（福祉型）」となる。平成27年4月からは、児童福祉法に基づき「流山市児童発達支援センター」となり、現在は心身の発達に遅れや心配のある幼児・児童の療育支援や理学療法などを行っている。また、医療的ケアが必要な重複障害児の受け入れもしている。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	延べ利用人数	5,338	5,839	6,102	人	→→
②							
③							
④							
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度の契約者数は31名であり、平成29年度より3名減であったが、延べ利用者数は、263名増加しており、出席率の向上など充実した支援が実施できた。			
事務事業の総コスト(a=b+c)	139,401,742	139,374,968	128,670,161				
事業費(b)(円)	30,139,742	32,254,968	32,412,161				
うち一般財源							
職員給与費(c)(円)	109,262,000	107,120,000	96,258,000				
人役・職員(人)	14.00	14.00	13.00				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)	8.00	8.00	7.00				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	つばさ学園に通う園児が快適に園で過ごせるよう4つある支援室に床暖房を整備する。また、つばさ学園の定員を30名から40名に増員するための条例改正を行う。	③取組における課題(Check)	定員増により園児が使用する備品（イス・ロッカー等）の整備を行いたい。
②H30に実施した取組(Do)	4つの支援室に床暖房を整備した。また、条例改正を行いつばさ学園定員を翌年度から40名とした。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	定員増による備品の整備を行う。また、一部老朽化している空調を新しいものに更新する。